

奈良の駅 シリーズ Vol.09



たかだ

駅名：高田駅



高田駅舎 外観

【駅舎概要】

所在地：大和高田市高砂町1

区域区分等：商業地域

構造：鉄骨造2階建

地上に2面3線ホーム

改札は橋上

建設時期：昭和59年8月

【沿革】

明治24年3月：大阪鉄道の高田駅～王寺駅間開通

明治26年5月：大阪鉄道の高田駅～桜井駅間開通

明治29年5月：南和鉄道が高田駅～葛（現吉野口）間開通

明治33年5月：王寺駅～桜井駅間を関西鉄道に譲渡

明治37年12月：高田駅～五條駅間を関西鉄道に譲渡

明治40年10月：国有化

昭和24年6月：日本国有鉄道発足

昭和59年8月：現橋上駅舎完成

昭和62年4月：民営化してJRの駅舎となる

JR 万葉まほろば線の駅シリーズ第9回は高田駅です。王寺駅と和歌山駅を結ぶ和歌山線の間駅であり、万葉まほろば線との分岐駅です。

■歴史・周辺環境

もともとは大阪軌道と呼ぶ私鉄の駅として、明治24年に設置されました。南葛城郡高田町から大阪方面へ汽車によってアクセスできるということで、街の発展に大きく寄与しました。その後、桜井方面や五條方面にも延伸し、奈良県中南部の交通の拠点となりました。現在の近鉄大阪線大和高田駅は昭和2年（当時は参宮急行電鉄線）、近鉄南大阪線高田市駅は昭和4年の設置でしたので、およそ40年近く、この地の中心駅として機能していました。

江戸時代より奈良盆地は、良質の綿の産地として知られていました。明治29年に大和紡績株式会社（後に摂津紡績に売却、尼崎紡績と合併して大日本紡績（ユニチカ）株式会社）が、この駅の近くに発足しました。もともとは高田地域で需給する綿糸を自給自足することを目的としていましたが、これが一大産業となり活況を呈しました。

大和高田のシンボルとなったユニチカ高田工場も昭和52年には輸入品台頭に押されるかたちとなり、とうとう工場閉鎖のやむなきとなりました。大きな産業がなくなり頻りに往来していた貨物機関車も昭和59年には廃止され、奈良県は全国の国鉄で鉄道貨物を扱わない唯一の県となりました。この頃、既に大阪方面への通勤需要がありましたが、あとからできた近鉄に押されるかたちで客足は奪われています。



高田駅舎 昭和36年撮影



ユニチカ 昭和50年頃撮影

■保存・活用

貨物列車の留置線跡（駅東側）は、駅前ロータリーと駐輪場、奈良県産業会館として整備されました。同時期に橋上駅舎が完成して、駅を挟んで東西の歩行者アクセスが容易になりました。2022年現在の1日の駅乗降客数は3926人となっています。（国土交通省調べ）

【記：高田支部 吉田泰造】



10月5日（土）和歌山県海南市舟尾の「琴ノ浦温山荘園」を訪れました。近畿建築士会協議会女性部会の事業で今回で9回目になります。

温山荘園は、新田帯皮製作所創業者の新田長次郎によって大正初期に造園されたものです。耐震の修復を担当された和歌山県文化財センターの多井先生より説明を受けながら14,000坪の壮大な敷地の庭園、主屋、浜座敷、茶室を見学させていただきました。庭園は、海から水を引いた潮入式池泉回遊庭園で大変珍しいものです。

見どころについて紹介させていただきます。

庭園：池にかけられた立派な一枚物の青石（緑泥片岩）橋や立派な松、建物間を結ぶ地下道やプライベートビーチへ通じるトンネルなどが配置されています。

主屋：1階がRC造、2階が木造の混構造になっています。小屋組がトラス構造になっています。2階24畳の広間にある欄間の「兎と波」の彫刻は素晴らしいです。開運飛躍の文様だそうです。

茶室：武者小路千家の茶室です。瓦屋根の上に茅葺き屋根が乗っているような形態で、瓦部分はこけら葺きを表現した緩い勾配の屋根です。モルタル製の擬竹塀の囲障が配置されています。



浜座敷：敷地の海側の崖上にあり、開放的な縁から素晴らしい眺望が広がります。金と銀の雲の文様の襖や蝙蝠の引手など細部まで凝った意匠となっています。

興味深いのは、十分な財力のある長次郎が、天然石や無垢の木材といった本物だけを使わず、わざわざ、接着剤や合板の開発に力を注ぎ、あえて当時の最新技術を用いて造ったというところです。庭の石も各所に擬石が使用されています。長次郎氏の様々な仕掛けを実際に訪れて体感してみてください。連合会女性部会ホームページでも紹介されています。



【記：女性委員会 庄田尚代】

10時開会、オープニングは琵琶湖岸に生えた葦による葦笛の演奏、曲は琵琶湖周航、地上の星、ヘッドライトテールライト等。滋賀県建築士会・山本良信・近畿建築祭実行委員の開会宣言の後、近畿建築士会協議会・岡本会長が近畿建築祭第42回開催を祝われ「職能を活かして能登地震に対し近畿建築士会協議会は応急危険度判定に協定している。また学生へ建築士会への参画を広めている」とのご挨拶がありました。

次に滋賀県建築士会・福谷晃会長から「近畿はひとつ！」の熱い掛け声の挨拶があり、令和8年度の奈良へ引き継ぐエールを贈られました。各来賓からは、滋賀県知事代理・波多野真樹土木交通部長より、「琵琶湖西岸断層の危険に対し防災力向上、まちの魅力づくり」に、大津市長代理・三國昌克都市計画部長より、「地震時初動、市団体への派遣等の協力及び石山寺等を見てほしい」と、日本建築士会連合会会長代理・日高頭一常務理事より開会を祝うご挨拶がありました。

ついで壇上で滋賀・福谷会長から近畿・岡本会長、そして奈良・中尾会長へと近畿協議会・建築祭大会旗の引き継ぎが滞りなく行なわれました。



次回開催地である奈良・中尾会長からは令和8年に世界遺産登録予定の「飛鳥・藤原」や、同年の大河ドラマ豊臣兄弟・豊臣秀長が城主の大和郡山城など、古事記の三輪山の赤い糸神話のように赤い糸で結ばれるヤマトを知っていただく大会を開催する方向であるとの抱負を述べられました。

最後に近畿協議会・岡本会長から令和7年度の全国大会大阪大会に関し、万博の見学やDX化を取り入れた従来とは異なる全国大会を開催する、との抱負と締めのご挨拶があり、近畿建築祭・式典は終了しました。

その後12時半まで「まちへくり出す建築士」とのテーマで、大阪公立大学・倉方俊輔教授の司会のもと、近畿建築士会協議会の女性、青年、まちづくりの各委員長、滋賀県建築士会大津地区委員長とで建築士会活動の報告等のフォーラムが開催されました。

昼食後、石山寺、沖島、坂本等へエクスカーション参加者は出かけました。



【記：副会長 高安秀和】

近畿建築祭「しが大会」が9月28日大津市民会館にて開催されました。近畿あーきてくと Vol.32 地域実践活動の転換～挑む！パラダイムシフト～について今回の企画を担当させていただいた、近畿建築士会協議会青年部地域委員会の福西より報告いたします。

例年近畿あーきてくとは2府4県それぞれで行われている地域実践活動の報告の場であり、次年度全国大会の青年セッションでの近畿代表を決める選考会も兼ねています。今年はガラッと内容を変更し、本会場近くの大津港より世界的にも珍しい淡水湖内の有人島である沖島へ琵琶湖汽船に乗船し、まち歩きを行い学習する企画となりました。



琵琶湖汽船 megumi



琵琶湖大橋

学生には現状や今後の活用方法についてもお話しいたきました。

【空き家問題】現在沖島には20件以上の空き家があり、その中の一つを芦澤研究室が活動拠点として活用されています。沖島の現状調査や空き家活用、修繕活動等が行われ、空き家を民泊にリノベーションされた事例もあります。

【少子高齢化問題】沖島小学校は1875年開設。淡水湖の離島で唯一の小学校で、1995年に現在の校舎が新築されました。2024年度の全校児童数は12人。小規模特認校に指定されており、市内ならどこの地域でも通学できるので島外から通学されている小学生がいます。



宮本邸(活動拠点)



沖島小学校

### ■第1部 船内企画(芦澤竜一先生による講義)

今回ゲストでお越しいただいた滋賀県立大学の芦澤竜一先生に、大津港から沖島までの間、沖島の現状や研究室で関わられているプロジェクトについて講義をしていただきました。琵琶湖に漂流してくる流木を使って沖島の人たちの交流の場「RYUBOKU HUT」というものがあり、制作の経緯や工法についてお話しいただきました。特徴としては島内の素材や技術を使い建築として応用するというので、流木を漁網を使ってそれぞれを結ぶというものでした。またその他にも芦澤先生が携わっている建築についての紹介もしていただきました。



RYUBOKU HUT



芦澤竜一先生

### ■第2部 沖島まち歩き企画

現在日本中の地域で様々な問題がありますが、沖島も例外ではなく、むしろ深刻な問題もあり、様々な団体や人が取り組みを行っています。

特に今回は【環境問題】【空き家問題】【少子高齢化問題】について芦澤研究室の学生やボランティアガイドさんにもご協力いただき、まち歩きをしました。

【環境問題】RYUBOKU HUTは沖島に流れ着いた流木を放射線状に組み、琵琶湖のヨシを屋根に葺いた島の拠り所として新たな資源活用を目指した建築です。

### ■第3部 船内企画(グループワーク)

沖島から大津港まで船内にて、3つのテーマを中心にまち歩きをして感じたことや、今後沖島はどのような取り組みをしていくべきかグループディスカッションをしていただきました。ざっくばらんに色々な意見が出てきたので非常に盛り上がりました。各グループごとに出た意見を発表し、最後に芦澤先生に総評をしていただきました。



### ■近畿あーきてくを通して

サブタイトルにパラダイムシフトとあるように、現在我々は大きな転換期にいます。3つのテーマはどれも簡単に解決できる問題ではありませんが、一部の住民だけでなく外部からの意見も含め、今後どのようなまちを残していきたいかそれぞれの視点から考える必要があります。そのために建築士会のいちメンバーとしても各地域でどのような取り組みが行われているかを注視していきたいです。

今回の近畿あーきてくとは初めての試みとなりましたが、100名の方にご参加いただきました。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

【記：近畿建築士会協議会青年部 福西正太郎】

青年委員会の恒例事業となっている、桜井木材協同組合青年経営者協議会(以下、木協様と表記)との共同事業「夏休み木工工作教室 及び 木の伐採事業」を7月28日(日)に木協様敷地内及び桜井市内林地にて実施しました。

本事業の概要・目的は下記の通りです。

木工教室：木協様が実施される木工工作教室の補助として電動工具を用いた木材無料カットの実施。木・木材の魅力を子供たちに伝え、次世代の木材利活用のきっかけづくり。

伐採事業：バスで山に移動し、木の伐採見学および伐採体験を参加者にして頂く。奈良県産材の魅力を伝える。林業に触れる機会づくり。

木工教室においては、昨年度比約2倍の300名を超えるご家族にご来場頂きました。無料カットブースは常に長蛇の列をなし、普段現場作業を行っている委員会メンバーには、本事業に大変貢献して頂きました。

一方、電動工具を使う事のない設計職の委員会メンバーは、工作の設計段階、材料選びから参加者に助言を行い、1日で作品が完成出来るように、参加者のサポートを行いました。結果、参加者の子供、大人に関わらず、多くの喜びの声を頂く事ができました。

本事業は、他団体の木協様と共同で行う事で、木の事を子供たちに分かりやすく伝える事ができ、また、私たち建築士だけでは、実施できない事業であると考えます。さらに、林業「見学」ではなく、林業「体験」できる機会は、大人にとっても大変貴重であると考え



ます。これらは、魅力ある県産材を伝えていく為の、有効な手段だと捉え、引き続き他団体と協力しながら、継続していきたいと思えます。

〈以下本事業の反省点・課題・今後の対策〉

- ・ 木工教室は、常時カット待ちの長蛇の列ができ、多々課題の残ることになりました。
- ・ 電動工具を扱う人員および、制作アドバイスをする人員、共に圧倒的な人員不足を今後どのように対応していくか、他委員会・各支部へ協力要請など今後考えていく。
- ・ 建築士会総会后、間もない7月実施の事業の為、委員会内での打合せ回数が少ないことを改善。本事業の実施報告時に、次年度の担当者を決定済。今年度から準備等を進めて行く。

【記：青年委員会 向川智己】

7月6日、今回で3回目の近畿ブロック地域リーダー会議が大阪府建築士会で開催されました。

日本建築士会連合会のまちづくり活動部会の地域リーダーは、47都道府県のすべてに配されている、景観、防災、歴史、街中(空き家)、福祉、木の6つのまちづくり活動部会の人員で、近畿の6府県にも担当者が存在します。その中から32名(奈良5名)が参加し、対面での会議に参加しました。このような会議は近畿ブロックが他のブロックに先駆けて行っています。

第1部の「6つのまちづくり部会地域リーダー会議」では、各部会において連合会の動向や各府県の状況を報告しあい、情報共有の時間もたれました。これらの情報は各府県に持ち帰り、今後の取り組みの参考にされることが期待されます。

第2部の「2府4県まちづくりに関する取り組み報告」は、これら全てがうまくいった事例のみではなく、この場への問題提議も含まれます。これに対して数人ずつの6班で意見交換がされ、打開策を探る時間が設けられました。この報告は前回の地域リーダー会議から始まり、今後の活動の一助になっています。

各府県からの報告は、滋賀：「災害対策委員会設置に向けて準備検討会指導」、京都：「地域まちづくり支援活動の取り組み」、大阪：「地域で守る歴史的建造物」、兵庫：「歴史的景観の保存とまちの将来を考える」、奈良：「山の辺の道、JR万葉まほろば線を拠点にした歴史的建造物、資源の掘り起こし事業」、和歌山：「災害に備える 木造仮設住宅配置計画でのデジタルツイン活用術」です。

第3部は席替えの後、約一時間の「ディスカッション」が行われ、活動に対しての問題点の抽出、その解決策と具体的な提案が意見交換されました。そこでは参加者が過去に経験したことにより、持ち合わせている具体的な方策が示され、報告をした当事者には有意義な意見の収集ができたと思えます。

各班から選出された一名から、議論された内容と問題解決策のまとめが報告され、それを聞く意見交換の成果が伺えました。



まちづくりにかかわる私たち建築士は、いろいろな専門家の中でも多くの人の意見を聞いてまとめられる能力があるので、それを活かせるよう、各地での活躍を誓い散会しました。

【記：住まいまちづくり委員会 伏見康司】

7月10・11日の2日間で奈良支部会員有志8名による「能登半島地震 災害状況調査」が行われました。

目的は、①災害復旧に用いるべき技術検討、②災害の起こり方把握、③調査の知見を設計に反映、④実スケールの現象の調査で、実務等を改善・見直す、⑤応急危険度判定の実情を把握、⑥社会・経済的状況との接点に関わる事象を含む課題を建築士会として見だし、事業の企画・立案に役立てることでした。

当日は朝から京都駅に集合し、昼前に金沢駅に到着しました。昼食時、福井県建築士会のメンバーの方に同席いただき、お話を聞くことができました。応急判定等は県内人員で完了したが、職人不足、工事車両の通行困難等で復興が遅れているということでした。



昼食後、レンタカーで最初の調査地の内灘町に向かいました。液状化と家屋倒壊が激しく、道路も嵩上げをして辛うじて通行できる状態でした。

無傷の家屋でもよく見ると隣家が寄りかかっているもの、廃棄物処理が間に合わず道路沿いに集積されているところが見受けられました。耐震補強済の学校が避難所になっており、行政の方が見学訪問する姿も見受けられました。復興支援のため県外の管理車両や治安維持のための警察車両も多く見受けられました。

宿泊した宿も被災しており、補修後、営業再開してあまり経っていませんでした。露天風呂・観光用栈橋が利用できず、エントランスの一部が傾いていました。



翌朝、地震津波災害現場、珠洲市等を視察し、輪島市に向かいました。倒壊した輪島市河井町のビルを調査し、杭の引き抜き応力への対応の大切さを体感しました。



この後、輪島朝市の大規模火災現場を見ました。約300棟が、木造密集地域で燃え広がり、倒壊した家屋や道路の寸断に阻まれて消火活動が遅れたと地方紙には書かれていました。河口の擁壁に沿った液状化に

よる道路の沈下が著しい部分や生々しい噴砂の跡が見受けられました。

土砂災害現場も遠くから見ましたが、捜索中が警察車両も見受けられました。のと里山空港にも立ち寄り、運用はされていましたが、液状化による沈下、デザイン性の高い片持ち階段のひび割れ補強などが見受けられました。



その後、輪島市黒島地区を調査しました。この地区は、北前船の歴史を伝え、国の重要伝統的建造物群保存地区(重伝建)に選定されている場所で、中核的な建物である「旧角海(かどみ)家住宅」が倒壊するなど、美しい町並みが再生できるかが懸念される場所でした。限界耐力計算で手間をかけて補

強されたであろう保存活用建物が倒壊しているのを見ると、補強、保存活用の難しさを改めて感じました。日本海の景色が美しい反面、隆起した突堤の激しい姿が印象に残りました。そのあと、金沢駅に向かい調査を終えました。

調査の目的を、必ずしも達成できたかどうかはわかりませんが、社会・経済的状況との接点に関わる事象を含む課題を建築士会として見だし、事業の企画・立案に役立てるといことはやらなければならないと強く感じました。

最後になりますが、調査・企画にご賛同いただき、送り出していただいた奈良支部幹事役員・会員の皆様に感謝申し上げます。能登半島地震 災害状況調査報告とさせていただきます。

【記：奈良支部 中元綱一】

#### 追記

調査後、9月の大雨による冠水や土砂崩れなどにより、地震の爪痕が残る復興途上の中、追い打ちをかけるように多くの被害が発生しました。

被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧をお祈りいたします。

調査参加者もそれぞれの立場で、微力ながら調査の経験を生かしていきたいと思ひます。

【記：奈良支部 伊藤吉郎】

## お知らせ

### ●令和7年新年大交歓会のご案内（予定）

日時：令和7年1月24日（金） 18時30分～  
場所：ホテルリガール春日野「飛鳥の間」

### ●入会者のご紹介

伴野 香 様（奈良支部）  
塩原 裕樹 様（橿原支部）  
よろしく願いいたします。



### ●奈良県建築士会会員向けメール配信サービスのご案内

この度、奈良県建築士会はメール配信のサービスを開始しました。このサービスは皆様の利便性と安全性を考慮してシステムを構築し、登録された建築士会会員にのみに発信いたします。ぜひ、この新しいサービスにご登録いただき、奈良県建築士会の活動をさらに充実させてください。

詳しくは、11月同封のチラシをご参照ください。

登録フォームはこちら→



## 編集後記

情報・広報委員会にデビューしたばかりの私に、いきなり記事と編集後記を書く機会がやってきました。記事を綴るにあたって、学生のころ以来何十年ぶりかのことでわざわざ図書館まで出向くことにしました。わざわざと大きめに書きましたが、家から一歩も出ることなく調べ物をしようと思えば大体はインターネットで済んでしまう時代ですから、図書館まで出向くことはそれだけで一手間となります。それでもいくぶんワクワクした気分でそこへ向かいました。大和高田市立図書館のリファレンスコーナーを頼り「国鉄高田駅の歴史」と入力。書籍はアナログでもデータベースはしっかりと

デジタル化されていて、本の所在を探るまでは容易でしたが、分厚い本の中から目当ての情報を当てるのはなかなか大変な作業でした。これはデジタル社会の便利さに慣れてしまった弊害なのかもしれません。しかし書籍で調べ物をするにはある意味効率的ですね。目的以外に脱線することが少ない。インターネットで調べ物をするといふ不必要な情報まで目に入ってしまうからですね。ただただ没頭して資料を深く探れることが図書館の強みだと気づきました。万事に懸念だったあの頃のノスタルジアが蘇る思いがけない体験とともに。【情報・広報委員 吉田泰造】

11月 13日（水） 監理技術者講習  
22日（金） 奈良支部主催スポーツ交流会

12月 5日（木） 二級・木造建築士試験合格発表  
25日（水） 一級建築士試験合格発表  
30日（月） 年末年始事務局休業（～1/3迄）

## 士會奈良

通巻658号  
令和6年11月1日（発行隔月1回1日発行）  
発行所 一般社団法人 奈良県建築士会  
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館  
電話：0742-30-3111 FAX：0742-33-4333  
WEBサイト：<https://nara-kenchikushikai.or.jp/>  
e-mail：[info@nara-kenchikushikai.or.jp](mailto:info@nara-kenchikushikai.or.jp)

発行責任者 中尾七隆  
編集 (一社) 奈良県建築士会 情報・広報委員会



## 情報・広報委員会

委員長 伊藤 吉郎  
副委員長 小西 直樹 福田 成生  
委員 吉村 晃人 本多 健一  
高杉 明 永友 翔  
松尾 憲治 上柿 範兼  
吉田 泰造 松田 輝明  
小松原寛俊 大和 良樹  
押部 誠

私の選択は  
間違ってた  
間違ってなかった

選んだのは、合格者の50%以上が  
進んだ王道ルートでした。

総合資格学院イメージキャラクター  
令和4年度一級建築士試験合格 当学院受講生 桐澤  
田中 道子さん

1級建築士  
合格実績 No.1

平成26～令和5年度

1級建築士 設計製図試験

全国 10年間  
合格者占有率

54.8%

全国合格者合計 36,470名中 / 当学院受講生 19,984名

※全国合格者数は、(公認)建築技術教育普及センター発表による。 ※総合資格学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、資料の提供提供者、過去受講生は一切含まれていません。(令和5年12月25日現在)

PRICE  
DOWN

各講座のクオリティは上げながら  
受講料を 値下げ しました

詳細は奈良校まで！



開講講座

建築士/建築・土木・管工事施工管理/設備・構造設計1級建築士/建築設備士/宅建/賃貸不動産経営管理士/インテリアコーディネーター

お問合せ先

奈良校 TEL:0742-30-1511